

## 2. 2. 高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理

### (1) 基本方針

○お客様に満足いただける安全、安心な高速道路を提供するとともに、維持管理業務についてパートナー（子会社）化による執行体制を構築することにより、一層の経営効率化に向けた基盤づくりの初年度と位置付け事業を実施します。

○平成18営業年度の管理延長は、中央自動車道（名神高速道路）などを含む計38道路3,249kmの区間で事業を実施します。

### (2) 事業計画

#### ➤ 常にお客様に安全と安心を実感していただけるよう重点投資を図り、良好かつ快適な道路の管理を行います

- ・騒音低減効果及び雨天時の事故防止効果の高い高機能舗装の整備を実施します。
- ・橋梁、トンネル等の道路構造物及び照明等施設設備の老朽化対策を実施します。
- ・高速道路上での本線渋滞<sup>\*1</sup>が発生することによる利用者の損失時間<sup>\*2</sup>（本線渋滞損失時間）の目標を3,128千台・時間／年とします。
- ・道路1kmあたりの路上作業に伴う年間の交通規制時間（路上工事による車線規制時間）の目標を75時間／km・年とします。
- ・走行車両1億台キロあたりの死傷事故件数<sup>\*3</sup>（死傷事故率）の目標を10.7件／億台キロとします。
- ・舗装路面の健全度<sup>\*4</sup>を表す車線の延長比率（舗装保全率）の目標を85%とします。

#### ➤ 災害に強い道路を目指すと共に、交通障害時におけるお客様へのきめ細やかな情報提供を行います

- ・橋梁の耐震補強を推進し、古い基準を適用した橋梁で、耐震補強を必要とする橋脚のうち補強が完了している橋脚基数の割合（橋脚補強完了率）の目標を86%とします。
- ・集中豪雨などによる被害の未然防止及び災害への対応力を充実します。
- ・ハイウェイラジオ、ハイウェイテレホン等において、交通障害の原因、作業状況、見通し等の詳細な情報をリアルタイムに提供するためのマニュアルを整備します。
- ・道路が利用可能な時間<sup>\*5</sup>の比率（利用時間確保率）の目標を99.7%とします。

#### ➤ ETC利用促進のための環境整備を推進します

- ・お客様のご利用が多い料金所において、ETCレーンを増設し、ETC導入済み料金所におけるETC利用者の割合（ETC利用率）の目標を68.0%<sup>\*6</sup>とします。
- ・ETCカードの挿し忘れや挿込不足をお知らせするアンテナを増設します。
- ・二輪車ETCの利用環境を整備します。

#### ➤ 地球環境保全の取り組みとして、CO2排出量削減を推進します

- ・樹林化の促進によるCO2削減を推進します。
- ・ETC利用促進によるCO2削減を推進します。

➤ **適正な管理水準とサービスレベルを常に検証し、更なる効率化や I T 等の技術開発によりメリハリのあるコスト削減に努めます**

- ・道路構造物、施設設備の延命化や管理コストの平準化、ライフサイクルコスト<sup>※7</sup>の最小化を図るマネジメント手法を導入します。
- ・ I T 技術を活用した維持、雪氷作業等の省力化及び効率化を図ります。
- ・ C S 調査等で把握する維持管理に関するお客様の満足度（顧客満足度）の目標を 3.5 とします。

(参考)

- ※1 本線渋滞とは、時速 40km 以下で低速走行あるいは停止・発進を繰り返す車列が 1km 以上かつ 15 分以上継続した状態をいいます。
- ※2 損失時間は、渋滞通過のために生じた遅れ時間を、法定速度と渋滞時の平均走行速度（25 Km/h）の差で算定した時間と影響台数で積算した年間総損失時間をいいます。  
渋滞損失時間は、1～12 月までの暦年の損失時間を示しています。
- ※3 死傷事故率は、2つの会社にわたる道路については走行台キロ比で事故件数を按分しています。  
また、会社が管理する道路のうち一部の道路は除かれています。  
死傷事故率は、1月～12月までの暦年の事故率を示しています。
- ※4 舗装の健全度とは、概ね5年以内には舗装補修を必要としない状態をいいます。
- ※5 道路が利用可能な時間の比率は、降雨、降雪による通行止め（災害、地震等を除く）と、事故や工事による通行止を除く、通行可能な時間をいいます。  
利用時間確保率は、1～12月までの暦年の確保率を示しています。
- ※6 ETC利用率は、平成19年3月の平均利用率（予定）を示しています。
- ※7 ライフサイクルコストは、構造物等の耐用期間中に係るコストの総額。建設費、管理費、維持修繕費等から構成されます。